

IOSCOによる「リスクの特定及び評価メソドロジー」の公表

証券監督者国際機構（IOSCO）は、本日、「証券規制当局のためのリスクの特定及び評価メソドロジー」（以下、「本報告書」という。）を公表した。本報告書では、IOSCO 及び証券規制当局が、発現しつつある又は潜在的なシステムミック・リスクを特定・評価するために策定してきた手法、アプローチ及びツールについて、実務的に概要を示すものである。

IOSCO のエマージング・リスク委員会は、IOSCO で進行中のシステムミック・リスクを特定、分析、モニターするための作業の一環として本報告書を策定した。2008 年のベア・スターンズ及びリーマン・ブラザーズの破綻以降、G20 及びその他国際機関は、銀行規制当局のみならず、証券規制当局もシステムミック・リスクの特定において重要な役割を担っているという点で合意した。

証券市場は複雑であり、幅広い異なる種類の仲介者、商品及び投資家が関与することから、本報告書では、市場におけるトレンド、脆弱性及びリスクの特定に当たっては一律な手法は存在しないことを認識している。その代わり本報告書では、エマージング・リスク委員会のメンバーである証券当局が現在採用している異なる手法の具体例を提供している。

本報告書は、以下のテーマに沿って構成されている。

- リスクの定義
- IOSCO のリスク特定手法
- 証券規制当局が採用しているリスク特定手法
- システムミック・リスク評価のための分析的フレームワーク

システムミック・リスクの特定、分析及びモニターは、証券規制当局にとっては未だに新しい取組みである。したがって、本報告書は、証券規制当局が当該分野での作業を進展させるにあたっての、1つのステップとしてみなされるべきである。本報告書で述べられている手法は進化し続けるものであり、したがって、本報告書はその時々に応じてアップデートや補足が必要となる。

本報告書では、証券規制当局が定性的なリスク分析と定量的なツールを組み合わせ、用いるようになってきていることが明らかにされている。この傾向には、定量的なリスク指標をシステムチックに追跡するリスク・ダッシュボードや、商品や会社、市場、インセンティブ、投資家行動等についてのリスク分析に焦点をあてるデータ分析、計量分析及び研究が該当する。

本報告書の背景：

昨今の金融危機の発生を受け、IOSCO は、証券規制当局がシステミック・リスクを特定、モニター、管理する必要性を強調した新しい戦略的方向性を採用し、IOSCO 事務局内のリサーチ部門及びエマージング・リスク委員会から構成されるリサーチ機能を創設した。

IOSCO リサーチ部門のスタッフによる一連のワーキング・ペーパーは、以下のリンクから入手できる。

http://www.iosco.org/research/?subSection=staff_working_papers